

世の中になほいと心憂きものは、人にくまれむことこそあるべけれ。たれてふ物狂か、われ人にさ思はれむとは思はむ。されど、自然に宮仕へどころにも、親・同胞はらからの中にも、思はるる思はれぬがあるぞ、いとわびしきや。

よき人の御ことはさらなり、下衆などのほどにも、親などのかなしうする子は、目たて耳たてられて、いたはしうこそおぼゆれ。見るかひあるはことわり、いかが思はざらむとおぼゆ。ことなることなきは、また、これかなしと思ふらむは親なればぞかしと、あはれなり。

親にも、君にも、すべてうち語らふ人にも、人に思はれむばかりめでたきことはあらじ。

世の中で、やはりとても憂鬱なもの（嫌なもの）は、人に憎まれるということだろう。いったいとこの変人が、「私は人に憎まれよう」と思うだろうか、（いや、そんな風に思うものはいない）。しかし、自然に宮仕えをする所でも、親ときょうだいの間でも、大切に思われている人と思われていない人がいるのは、非常にとつらいなあ。身分が高い人のことは言うまでもなく、下々の身分の者でも、親などが可愛がる子は、目立っていて注意を集めて、可愛がられるものである。見る価値のある（綺麗な容姿をした）子は道理であるが、どうして（親が）大切に思わないことがあるだろうか（いや必ず可愛がるはずである）と思われる。格別なところがない子は、また、この子を可愛いと思うのは親だからこそだと、しみじみと感慨深い。親にでも主君にでも、一般的に仲良くしている人にでも、人に大切に思われるということほど、素晴らしいことはないだろう。